



37号 令和5年7月31日

<学校教育目標>

自ら伸びる ともに伸びる

校長だより

呉市立市阿賀小学校
安宗 誠



思いやりから生まれた強い絆！

NHK テレビで甲子園を目指す球児のエピソードを特集していた番組を見ました。

奈良県大会決勝戦。天理高 対 生駒高。天理は甲子園の常連校。それに対し、生駒はこれまで甲子園には縁のなかった学校。しかし、「ここまで勝ち進んだのだから何が何でも優勝を！」と意気込む生駒。その矢先……。決勝前夜、主力選手のほとんどがコロナで出場できない事態に。棄権の危機さえあった中、控えの選手で何とか臨んだ決勝戦。しかし、力の差は歴然。8回を終えて、21対0。生駒の攻撃もあと1人。9回ツーアウトランナーなし。

そこで、天理の選手がマウンドに集まります。そして、天理のキャプテンから次の言葉。「試合が終わっても、喜ばずにすぐに整列しよう。」

後日、天理の選手たちは生駒の選手たちに、生駒のベストメンバーでの再試合を申し込みます。申し込んだのは生駒のほうではなく天理のほうから。ここから、天理と生駒の敵味方を越えたつながりが深まっていきます。奈良県代表として甲子園に出場した天理の応援に生駒も駆け付け、そのアルプス席には生駒から天理に贈られた横断幕も。そこには、両校のスローガン、天理の「つなぐ」、生駒の「心をひとつに」の文字。天理の選手は、アルプス席からの生駒の選手の応援を力に変えて戦ったと言います。

それから約1か月後、天理 対 生駒の再試合は実現します。1点を争う好ゲームとなりました。生駒1点ビハインド。最終回、生駒ツーアウトとなったとき、天理の選手がマウンドに集まります。

「勝ったら、全力で喜ぶことにしよう！」あのとときとはちがうすがすがしい空気が確かにそこには流れていました。

試合終了の瞬間、人差し指を天に掲げ、踊るようにマウンドに駆け寄る天理ナイン。すると、どうでしょう！同じように人差し指を天に掲げながら、ダッグアウトからマウンドに駆け出す生駒ナインの姿。そして、喜び合い、抱き合う両チームの歓喜の渦！

思いやりから生まれた強い絆に見ていて思わず胸が熱くなりました。

